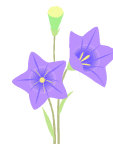




野生植物研究所だより



～ 梅雨真っ只中の宮城県... 7月に咲きはじめる植物を3種類ご紹介いたします ～

● エゾノコギリソウ 葉縁のきょ歯はまさにノコギリ! ●

本州中部以北から北海道、千島、樺太、カムチャッカ、東シベリアにかけて分布するエゾノコギリソウは、北地の草原に生える多年草です。高さは10～85cmほどになります。葉は長楕円形～披針状線形で、長さは3～7cm、巾5～11mmで、縁には細かいきょ歯があり、無柄で、基部はなかば茎を抱きます。花は7～8月に咲きます。頭花は白色で、散房状に多数つきます。総苞は半球形で長さ5mm、密に絹毛があります。舌状花は2列に並び、12～19個あります。宮城県では、石巻市網地島や田代島などに見られます。



エゾノコギリソウ

● トモエソウ 5個の花弁は巴(ともえ)形 ●

オトギリソウ科のトモエソウは、山の草地に生える多年草です。茎は直立して枝分かかれし、4つの稜があり、高さ50～100cmにもなります。葉は全縁で、すかして見ると明るい細かい点があり、対生で、葉柄がなく、茎を抱きます。花は7月から8月にかけて、枝の頂上に大きな黄色い花をつけます。5個の花弁は、左右不同で巴(ともえ)形をしています。多数の雄しべは5つの束になっています。中央の子房には1本の花柱があり、頂端部が5つに分かれ、それぞれその先端に柱頭があります。北海道、本州、四国、九州、朝鮮等に分布し、宮城県では不忘山、加護坊山、田東山など、各地に広く見られます。



トモエソウ

● 絶滅危惧種 キキョウ ●

今から50年以上も前のことになりますが、私が小さかった頃、お盆前になると決まって野に咲いているキキョウ、オミナエシ、ワレモコウを束にして各家々をまわり、売りに来る山手に住むおばあさんがいました。その頃は、私の家から2kmほど離れた所にある化女沼周辺にはキキョウ、オミナエシ、ワレモコウも普通に見られましたし、春に花が咲くオキナグサやアズマギクも、いたる所に見られたものです。キキョウ科のキキョウは、日当たりのよい山野や草地に生える多年草です。根は太く、茎は高さ50～100cm以上にもなり、傷をつけると白液を出します。葉は互生し、狭卵形でふちには鋭いきょ歯があり、長さ4～7cm、巾1.5～4cmで下面は白緑色をしています。花は7～9月頃、茎頂近くに数個つき、花冠は径4～5cm、青紫色ですが淡紫色や白色のものもあります。雄しべは5本で、雌しべの柱頭は5裂します。分布は日本全土、朝鮮、中国等ですが、近年、激減しており、絶滅した県も出てきています。レッドデータブックによると、判定基準はE、100年後の絶滅確率はほぼ100%になっています。原因は園芸用の採集、草地植生の遷移、草地の開発と考えられています。



キキョウ

梅雨明けが待ち遠しいこの季節・・・ひっそりと咲く花々は、しばし蒸し暑さを忘れさせてくれます・・・

【連絡先】 〒989-6252 宮城県大崎市古川荒谷字簗ノ子町12-2 ☎ 0229-28-3601 FAX 0229-28-4452

Blog: <http://plaza.rakuten.co.jp/wakichi/> E-mail: nagaguduwakichi@yahoo.co.jp

URL: <http://www.wakichi.com/>